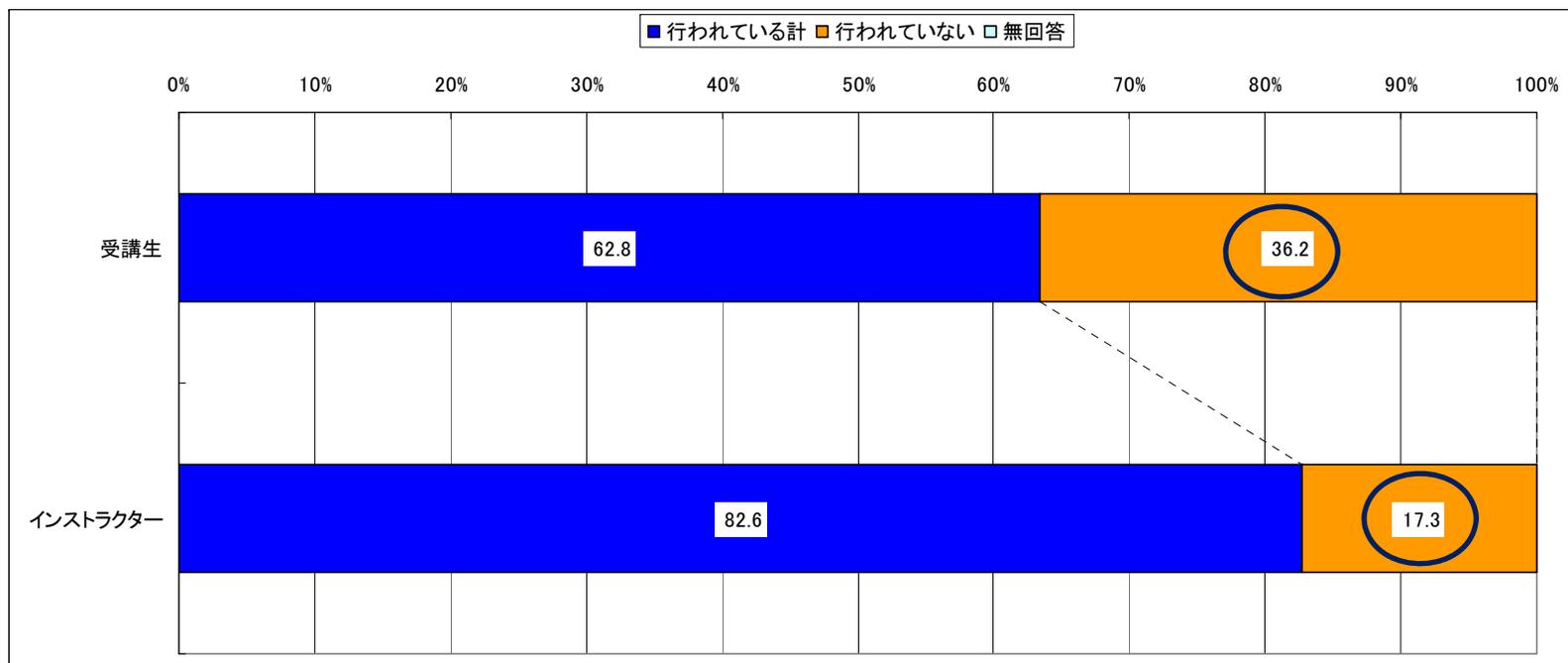


# 所属先(勤務先)でのNCPRの勉強会の有無

受講生 : あなたの所属先(勤務先)ではNCPRの勉強会は行われていますか？

インストラクター : あなたの所属先(勤務先)ではNCPRの勉強会を行っていますか？

◆受講生・インストラクターの回答選択肢が異なるため純粋な比較は出来ないが、「所属先でのNCPR勉強会を行われていない」の回答は、インストラクターが17.3%に対し受講生は36.2%となった。所属先にインストラクターがおらず外部で講習会を受けた場合など、継続して勉強会を行いたくても出来ない状況にあると推測される。



	合計	行われている計	行われていない	無回答
受講生	1830	62.8	36.2	0.9
インストラクター	588	82.6	17.3	-

# 受講生：所属先(勤務先)でのNCPRの勉強会の有無 ＜都道府県別＞

◆県別にてNCPR勉強会の有無を集計した。回答数に大きな差があるため%では測れない部分もちろんあるが、インストラクターの方への参考として掲載します。

	合計	行われている計	行われていない	無回答		合計	行われている計	行われていない	無回答
北海道	49	44.9	55.1	-	三重県	19	47.4	47.4	5.3
青森県	0	-	-	-	滋賀県	17	82.3	17.6	-
岩手県	24	37.5	62.5	-	京都府	76	44.7	55.3	-
宮城県	11	90.9	9.1	-	大阪府	106	61.3	38.7	-
秋田県	2	50	50	-	兵庫県	95	73.7	26.3	-
山形県	6	66.7	33.3	-	奈良県	47	76.6	23.4	-
福島県	17	47.1	52.9	-	和歌山県	2	0	100	-
茨城県	27	62.9	37	-	鳥取県	13	100	-	-
栃木県	60	60	40	-	島根県	10	60	40	-
群馬県	23	47.8	52.2	-	岡山県	27	77.7	22.2	-
埼玉県	72	72.3	26.4	1.4	広島県	35	71.5	28.6	-
千葉県	68	52.9	47.1	-	山口県	33	57.6	42.4	-
東京都	241	66.4	32.8	0.8	徳島県	49	67.3	32.7	-
東京都下	66	54.6	43.9	1.5	香川県	0	-	-	-
神奈川県	168	60.8	36.9	2.4	愛媛県	16	62.6	37.5	-
新潟県	42	71.4	28.6	-	高知県	5	40	60	-
富山県	16	87.6	12.5	-	福岡県	78	64.1	34.6	1.3
石川県	7	42.9	57.1	-	佐賀県	7	14.3	85.7	-
福井県	21	85.7	14.3	-	長崎県	5	-	100	-
山梨県	11	72.8	27.3	-	熊本県	7	85.8	14.3	-
長野県	23	69.6	30.4	-	大分県	17	41.2	58.8	-
岐阜県	39	43.6	56.4	-	宮崎県	20	60	30	10
静岡県	64	65.7	28.1	6.3	鹿児島県	10	90	10	-
愛知県	44	75	22.7	2.3	沖縄県	10	100	-	-
					無回答	25	52	48	-

# インストラクター:所属先(勤務先)でのNCPRの勉強会の有無 ＜都道府県別＞

◆同様にインストラクターの回答も県別にてNCPR勉強会の有無を集計したが、こちらも参考として掲載します。

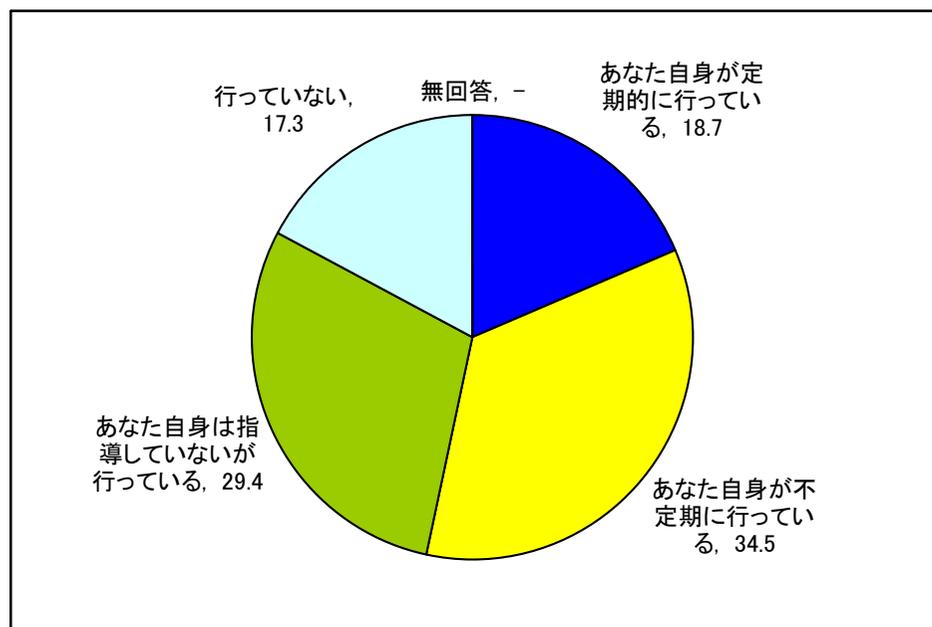
	合計	行っている計	行っていない	無回答		合計	行っている計	行っていない	無回答
北海道	25	80	20	-	滋賀県	7	57.2	42.9	-
青森県	4	75	25	-	京都府	12	99.9	-	-
岩手県	10	80	20	-	大阪府	37	89.1	10.8	-
宮城県	4	100	-	-	兵庫県	21	76.1	23.8	-
秋田県	5	80	20	-	奈良県	11	100	-	-
山形県	8	100	-	-	和歌山県	4	75	25	-
福島県	7	85.8	14.3	-	鳥取県	1	100	-	-
茨城県	10	70	30	-	島根県	6	100	-	-
栃木県	18	77.8	22.2	-	岡山県	11	91	9.1	-
群馬県	14	85.8	14.3	-	広島県	12	66.6	33.3	-
埼玉県	16	93.8	6.3	-	山口県	4	100	-	-
千葉県	25	84	16	-	徳島県	7	100	-	-
東京都	59	81.3	18.6	-	香川県	5	80	20	-
神奈川県	52	73.1	26.9	-	愛媛県	4	100	-	-
新潟県	8	87.5	12.5	-	高知県	2	100	-	-
富山県	4	75	25	-	福岡県	14	85.7	14.3	-
石川県	2	100	-	-	佐賀県	5	60	40	-
福井県	7	100	-	-	長崎県	7	57.2	42.9	-
山梨県	12	66.7	33.3	-	熊本県	6	100	-	-
長野県	9	100	-	-	大分県	8	100	-	-
岐阜県	16	81.3	18.8	-	宮崎県	7	85.7	14.3	-
静岡県	19	84.1	15.8	-	鹿児島県	4	75	25	-
愛知県	26	69.2	30.8	-	沖縄県	8	87.5	12.5	-
三重県	7	85.8	14.3	-	無回答	18	83.4	16.7	-

# インストラクター：所属先でのNCPR勉強会の有無

インストラクター：あなたの所属先(勤務先)ではNCPRの勉強会を行っていますか？

◆定期的に自身が行っているとの回答は18.7%に留まったが、82.6%のインストラクターは何らかの形で勉強会は行われていると回答した。

しかし、前述のとおり、受講生は「所属先でのNCPR勉強会を行われていない」の回答が36.2%となっているため、継続学習のための勉強会の場の提供やプログラムの開発などはこの事業の課題といえる。



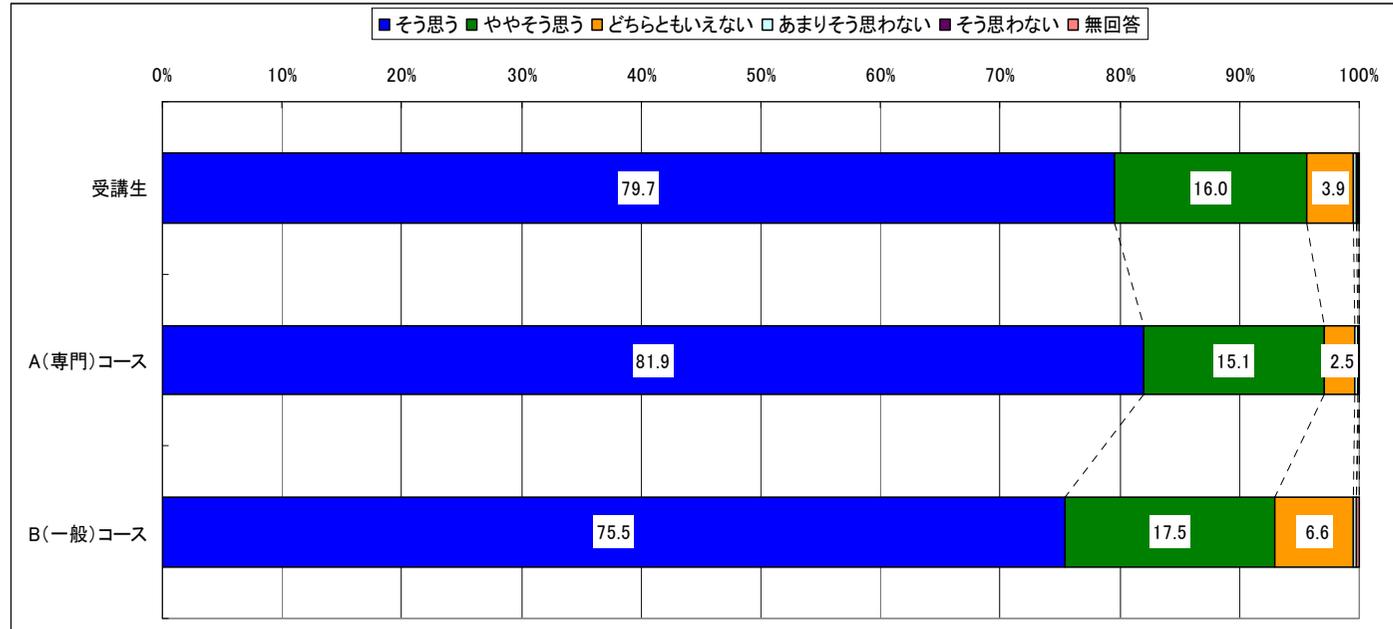
	合計	あなた自身が定期的に行っている	あなた自身が不定期に行っている	あなた自身は指導していないが行っている	行っていない	無回答
インストラクター	588	18.7	34.5	29.4	17.3	-
責任者・インストラクター経験	456	22.1	38.8	24.8	14.3	-
補助のみ経験者	132	6.8	19.7	45.5	28.0	-
インストラクター資格取得年						
2007年・2008年	276	23.6	40.9	25.0	10.5	-
2009年	133	14.3	30.1	31.6	24.1	-
2010年	122	16.4	28.7	32.8	22.1	-
2011年	57	10.5	26.3	38.6	24.6	-
満足度						
満足計	383	21.1	38.6	24.5	15.7	-
不満足計	205	14.1	26.8	38.5	20.5	-
インストラクター経験回数						
20回以上	25	44.0	36.0	12.0	8.0	-
5～20回未満	215	29.3	42.8	17.2	10.7	-
2～5回未満	226	13.3	31.0	37.2	18.6	-
1回	122	4.9	26.2	40.2	28.7	-
職業						
小児科医師	274	24.0	39.0	22.0	15.0	-
産婦人科医師	237	14.6	36.0	35.4	14.0	-
その他の医師	4	-	75.0	-	25.0	-
助産師	93	15.5	25.0	34.5	25.0	-
看護師	64	14.8	23.0	37.7	24.6	-
その他	5	-	40.0	20.0	40.0	-

# 受講生：NCPRを継続的に学ぶ必要性

受講生：あなたは、今後NCPRを継続して学ぶ必要があると思いますか？

◆95.7%の受講生が、NCPRを継続的に学ぶ必要があると思うと回答。

前述のNCPRの勉強会の有無とあわせて、継続学習への取り組みは、本事業の課題といえる。



		合計	そう思う計	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	そう思わない計	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
受講生		1830	95.7	79.7	16.0	3.9	4.2	0.3	0.1	0.1
NCPR受講コース	A(専門)コース	1189	97.0	81.9	15.1	2.5	2.8	0.3	0.1	-
	B(一般)コース	641	93.0	75.5	17.5	6.6	6.8	0.2	-	0.3
職業	小児科医師	129	96.9	79.8	17.1	2.3	0.8	0.8	-	-
	産婦人科医	170	97.6	78.8	18.8	1.8	0.6	-	0.6	-
	その他の医師	48	91.7	68.8	22.9	8.3	0.0	-	-	-
	助産師	832	97.1	85.3	11.8	2.9	0.0	-	-	-
	看護師	568	93.5	74.3	19.2	5.6	0.5	0.5	-	0.4
	救急救命士	23	86.9	47.8	39.1	8.7	4.3	4.3	-	-
	学生	39	94.9	74.4	20.5	5.1	0.0	-	-	-
	その他	19	89.5	73.7	15.8	10.5	0.0	-	-	-

# 受講生：学ぶ手法

受講生：あなたは、今後NCPRを継続して学ぶ必要があると思いますか？の設問に「そう思う」もしくは「ややそう思う」と回答した人のみ

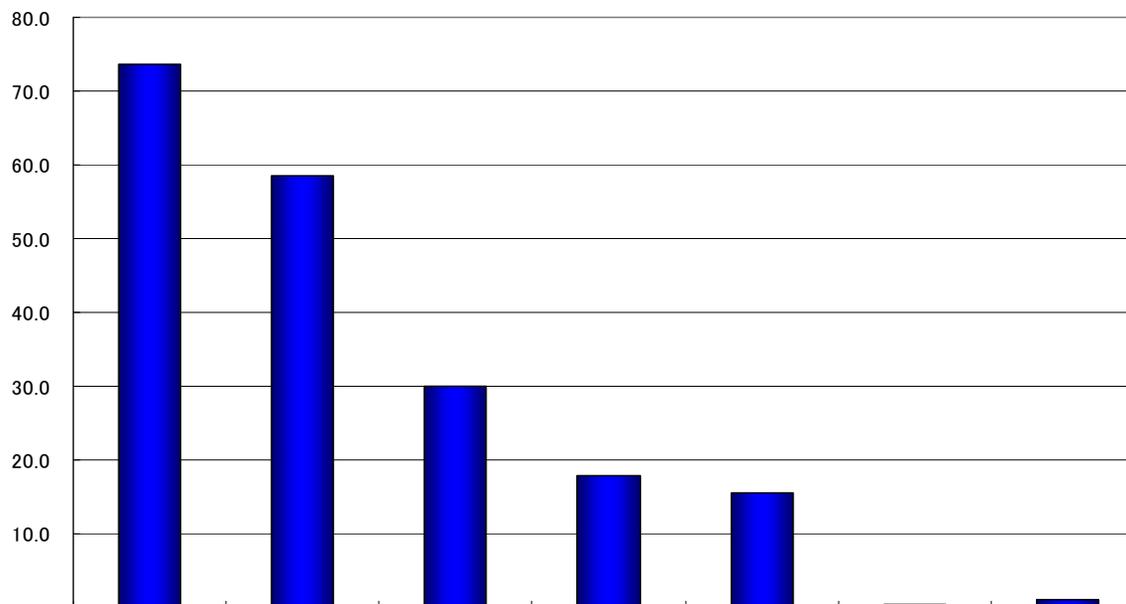
あなたは、どのような方法で継続して学んでいきたいですか？（複数回答）

◆継続学習の方法としては、「施設内での勉強会」や「正規のNCPR講習会」を望む声が多かった。

どのような事を継続して学ぶ必要があると思っているかについての自由回答では、「手技の継続学習」や「色々なシナリオの実践」などの要望が非常に高かった。これらの声にどのように答えていくかもこれからの課題である。

また、「ガイドライン改訂に伴う新しい知識を得る事」を望む声も多かった。

■ 受講生



		合計	病院・施設内 などの勉強会	正規のNCPR 講習会	学会主導の 復習講習会	書籍・テキスト 等による独学	インターネット を使ったEラー ニング	その他	無回答
受講生		1750	73.6	58.6	30.0	17.8	15.5	0.5	1.0
NCPR受講コース	A(専門)コース	1154	72.3	57.9	32.3	18.2	18.1	0.3	1.2
	B(一般)コース	596	76.0	59.9	25.5	16.9	10.4	0.7	0.7
職業	小児科医師	129	67.2	56.0	23.2	16.8	20.0	-	1.6
	産婦人科医	170	63.0	56.4	38.2	15.8	20.6	0.6	3.0
	その他の医師	48	72.7	43.2	20.5	31.8	25.0	-	2.3
	助産師	832	73.1	62.0	35.4	17.8	16.4	0.6	1.0
	看護師	568	79.3	55.9	21.8	17.5	10.7	0.4	0.2
	救急救命士	23	55.0	80.0	15.0	15.0	25.0	-	-
	学生	39	75.7	43.2	24.3	18.9	10.8	-	2.7
	その他	19	88.2	76.5	47.1	17.6	11.8	-	-

# 受講生：どのような事を継続して学ぶ必要があると 思っていますか？（自由回答）

いつもと違うチームでやることも勉強になる。	小児科医師	シナリオ実習のような状況設定だと万が一の時も考える力が身につくと思うので	助産師
最新の手技と考え方	小児科医師	修得した知識技術を忘れないように、2~3か月に一度のペースでも勉強会・講習会をやる必要はあるのでは	助産師
実際にモノにさわったりする・見て動かすなど（実践）	小児科医師	手技・チーム医療	助産師
シナリオ、人形を用いた実践にそった勉強法が良いと思います。	小児科医師	手技の復習・院内での連携に結びつくような事	助産師
シナリオ実習を繰り返し行い、実際の場でしっかり落ち着いて判断できるようトレーニングが必要があると思ひます	小児科医師	症例の振り返り、手技の確認など継続すること	助産師
手技の確認、新しい知識の確認、周囲の未受講者に対する伝達	小児科医師	事例にもとづく実践力	助産師
蘇生を必要とする件数が少ないため、その逆逆に全般的な定期的な復習が必要と思ひます	小児科医師	たまには勉強会へ出席し新しくなったことを学び、バッグマスクはスタッフ全員が習得できるといいと思う。	助産師
どのような状態になったとき、何%のO2より蘇生を始めるか、新生児の脳低体温療法	小児科医師	知識手技、チーム医療など。コンセンサスはどんどん変わっていくものだと思うので、定期的に講習会を受講することが重要だと思う。	助産師
自らの仕事に直結しているため全て継続して学びたいと思ひます	小児科医師	知識の再確認・バッグマスクや胸骨圧迫の手技を練習する	助産師
見て実践して教えるの3つを繰り返すことを継続したいと思ひます	小児科医師	テキストを利用してアルゴリズムを継続して学びたい	助産師
新しい知識手技の復習	産科医師	バッグマスク・胸骨圧迫・およびコンビネーション全ての実技を自己流にならないように再確認する必要がある。	助産師
アルゴリズム、チーム医療の大切さ	産科医師	めったに使用しない技術なので緊急時すぐに行えるための日ごろからの訓練は必要	助産師
技術の維持と知識のアップデート	産科医師	e-ラーニングで繰り返し知識を得て、講習会で実践能力を高めていきたい	看護師
講習会の内容のアップデート、手技の再確認	産科医師	NCPR講習会や病院内での勉強会を継続していく	看護師
最新の器材、技術について	産科医師	新たな知識や常識を定期的に学ぶこと。技術については繰り返し行うことが必要。	看護師
自院のスタッフに何を重点的に指導する必要があるか学びたい	産科医師	色々なケースを元にしたシナリオに沿っての実技演習	看護師
実技について。特に講習会で行われたロールプレイは実際の場で役に立つと思う	産科医師	インストラクターになることも勉強になると思ひます。又職場での勉強会を主催し、シュミレーションを定期的に行っていく必要があると思ひます。	看護師
実践的なシナリオ等による練習、一般病院では実際に手技を使うことは少なく、実践的練習を繰り返すことが効果的だと思う	産科医師	技術の確認をしたり、こういう場合は次こうなったらどうするか、とシュミレーションを行う	看護師
実例提示でどう動かすか、インストラクターに見てもらい指導を受けたい	産科医師	基礎知識、基本手技、応用力	看護師
手技の確認、トレーニングとアップデートな知識の習得	産科医師	胸骨圧迫は実際現場で当たる回数が少ないので、胸骨圧迫やバッグと胸骨圧迫のコンビネーションの手技	看護師
新生児の状態に対する対応の選択について	産科医師	緊急時に備えて搬送に至るまでの連携プレー・シュミレーション	看護師
すぐに動けるイメージトレーニング	産科医師	具体的事例を用いた実技練習	看護師
スタッフが同じ意識を持って蘇生に取り組めること・知識を共有すること	産科医師	実技やチームワーク	看護師
知識技術を維持するための蘇生の全て	産科医師	実際に経験した例でのシュミレーションや仮定した例での演習を定期的に行うこと	看護師
バッグマスクや胸骨圧迫などの手技の再確認と実践	産科医師	シナリオ実習を繰り返すことにより判断力を身につけたい	看護師
反射的に動けるよう、またチームワークの確認を定期的に	産科医師	児の呼吸状態に応じたバッグマスクの使用法や適切な手技	看護師
アルゴリズムの流れや一つ一つの手技のもつ意味の理解を深めたい	その他医師	自分の病院で起こり得る事例を基にしたシュミレーション	看護師
周産期医療でのルーチンを確立し、日々問題のない分娩でも常にNCPRを活かし考える	その他医師	シュミレーションと手技・知識の復習・改正時に変わったポイント	看護師
挿管手技や人工呼吸手技などのあまり頻度の少ない実技	その他医師	人工呼吸と胸骨圧迫のコンビ	看護師
医療の指針に沿って改正しながら、知識と手技の実際をインストラクターから教えるうけたい	助産師	チーム医療の大切さや地域医療について	看護師
インストラクターのもと、実技を実践して身体で覚えて行くことが大切	助産師	バッグマスク、胸骨圧迫、挿管、事例を用いたシュミレーション	看護師
改正があるので最新の知識が必要。練習を続けなければ忘れてしまう。	助産師	勉強会と共に実技を定期的に学びたいと思う	看護師
ガイドラインの改定など定期的に見直し手技の確認を行うこと	助産師	やってないと忘れてしまうため定期的に緊張感を持って一人ずつ取り組む	看護師
基礎の復習とケーススタディ（実践しながらの）	助産師	アルゴリズムにのっとった活動ができること、アルゴリズムの復習	救急救命士
継続学習のシステムを作って頂きたい。手技が1回では限界がある。その後の自己学習ではだんだん自己流になってしまう可能性がある。	助産師	知識の整理・技術の継続維持	救急救命士
講習会のアシスタントやスタッフ参加し、たえず新しい知識を身につけたい	助産師	アルゴリズムは繰り返し復習しないと知識として定着しないと感じました	学生
最新の知識技術・事例などによる実践に役立つトレーニングの繰り返し	助産師	手技や実践力	学生
実際の現場でチャンスがあればどんどんすすんでいく、テキストも買って自分の頭にたたきこむ	助産師	新しい情報を取り入れながら、日々手技を上達していきたいと思う	その他
実践があきらかに少ないので、身につくまで反復学習がしたい	助産師	手技と知識は定期的に復習して身につけておく必要がある	その他

※これは自由回答の抜粋です。

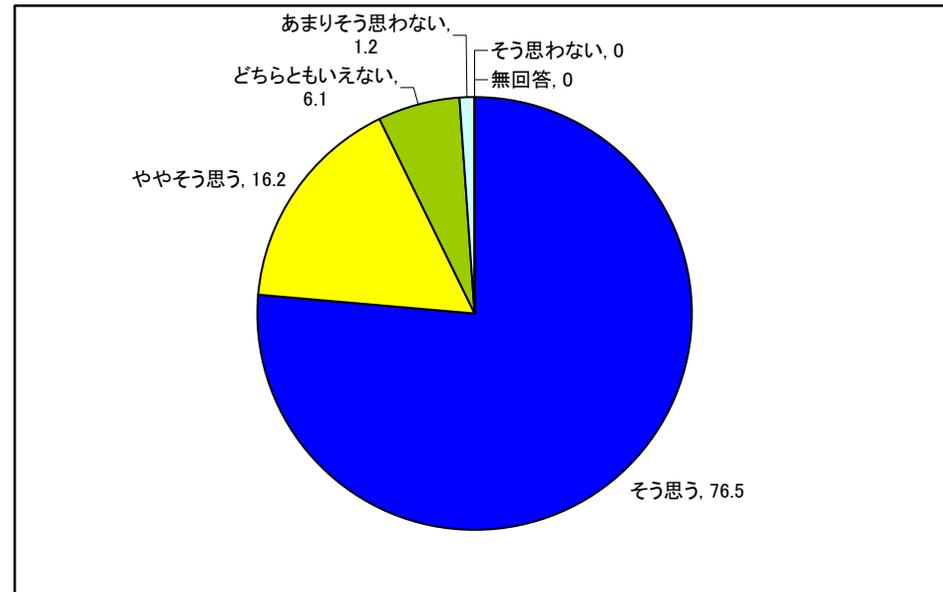
# インストラクター：NCPRを継続的に学ぶ必要性の有無

インストラクター：あなたは、今後NCPRインストラクターとしてのスキルを、継続して学んでいく必要があると思いますか？

◆92.7%のインストラクターが「インストラクターとしてのスキル」の継続学習の必要性を感じている結果となった。しかも、インストラクターの経験回数が多い人ほど、「必要がある」との回答が得られた。

◆逆に資格取得年が近いほどその必要性を感じている結果となった。

後述の継続的に学んでいきたい事柄は何かの自由回答からは、「新しい知識」や「手技」などの受講生と同じ視点のものも多かったが、「インストラクションスキル」や「効果的な教え方」「効果的な講習会の進め方」などについて学習を望む声も多くみられた。



	合計	そう思う計	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	そう思わない計	あまりそう思わない	あまりそう思わない	無回答
インストラクター	588	92.7	76.5	16.2	6.1	1.2	1.2	-	-
責任者・インストラクター経験									
責任者・インストラクター経験者	456	92.3	75.9	16.4	6.4	1.3	1.3	-	-
補助のみ経験者	132	94.0	78.8	15.2	5.3	0.8	0.8	-	-
インストラクター資格取得年									
2007年・2008年	276	91.6	77.5	14.1	6.5	1.8	1.8	-	-
2009年	133	90.2	68.4	21.8	8.3	1.5	1.5	-	-
2010年	122	95.1	77.9	17.2	4.9	-	-	-	-
2011年	57	98.2	87.7	10.5	1.8	-	-	-	-
満足度									
満足計	383	94.0	75.2	18.8	4.7	1.3	1.3	-	-
不満足計	205	90.2	79.0	11.2	8.8	1.0	1.0	-	-
インストラクター経験回数									
20回以上	25	100.0	84.0	16.0	-	-	-	-	-
5~20回未満	215	94.4	77.2	17.2	4.7	0.9	0.9	-	-
2~5回未満	226	91.1	77.4	13.7	7.1	1.8	1.8	-	-
1回	122	91.0	72.1	18.9	8.2	0.8	0.8	-	-
職業									
小児科医師	274	91.8	70.1	21.7	7.5	0.8	0.8	-	-
産婦人科医師	237	92.2	77.0	15.2	5.6	2.2	2.2	-	-
その他の医師	4	75.0	75.0	-	25.0	-	-	-	-
助産師	93	96.5	92.9	3.6	2.4	1.2	1.2	-	-
看護師	64	95.1	80.3	14.8	4.9	-	-	-	-
その他	5	80.0	60.0	20.0	20.0	-	-	-	-

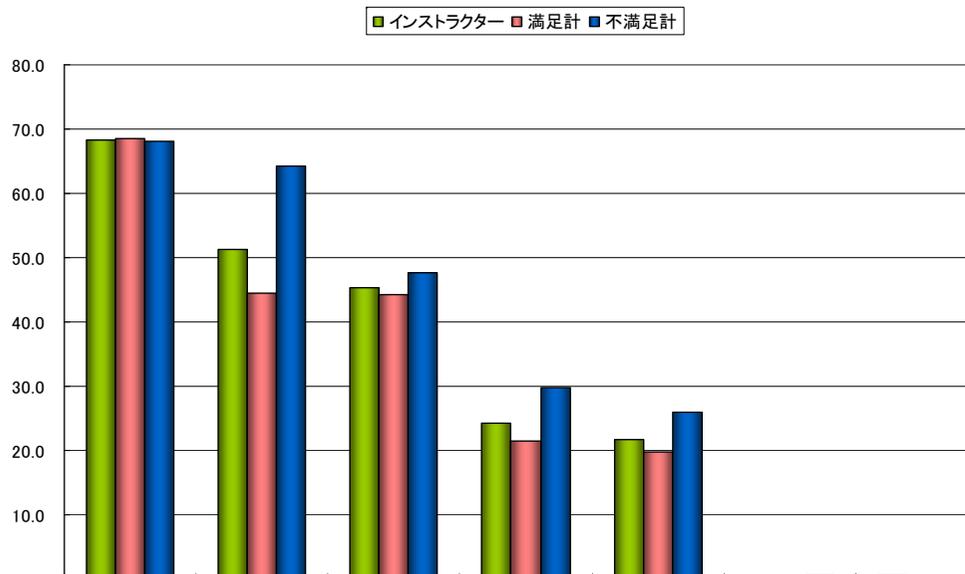
# インストラクター：学ぶ手法

インストラクター：あなたは、今後NCPRインストラクターとしてのスキルを、継続して学んでいく必要があると思いますか？の設問に「そう思う」もしくは「ややそう思う」と回答した人のみ  
どのような方法で継続してインストラクターとしてのスキルを学んでいきたいですか？（複数回答）

◆インストラクタースキルを学ぶ手法については「学会主導のインストラクター講習会」、「地域のインストラクター同士での勉強会」「e-ラーニング」の順となった。

自身のインストラクションに満足していないと回答した層は特に「地域でのインストラクター同士での勉強会」を希望する回答が高く、前述のとおり、トレーニングサイトを中心とした地域のインストラクター間の連携や、インストラクションに自信のない人へのフォローアップ講習などを実施は急務であろう。

また、e-ラーニングを望む声も多く、「インストラクタースキル」についてのe-ラーニングの整備も早急に取り組んでいく必要がある。



	合計	学会主導のインストラクター講習会	地域のインストラクター同士での勉強会	インターネットを使ったEラーニング	施設内のインストラクター同志での勉強会	書籍・テキスト等による独学	その他	無回答	
インストラクター	545	68.4	51.2	45.3	24.2	21.8	0.6	0.4	
インストラクター資格取得年	2007年・2008年	253	69.6	45.1	47.8	17.4	18.6	0.8	0.4
	2009年	120	70.0	57.5	40.8	26.7	24.2	-	-
	2010年	116	67.2	50.9	42.2	28.4	19.0	-	0.9
	2011年	56	62.5	66.1	50.0	41.1	37.5	1.8	-
満足度	満足計	360	68.6	44.4	44.2	21.4	19.7	0.6	0.6
	不満足計	185	68.1	64.3	47.6	29.7	25.9	0.5	-
インストラクター経験回数	20回以上	25	88.0	48.0	48.0	12.0	20.0	4.0	-
	5~20回未満	203	70.4	46.8	50.2	17.2	21.7	0.5	0.5
	2~5回未満	206	68.0	51.5	42.2	25.2	21.8	-	0.5
	1回	111	61.3	59.5	41.4	37.8	22.5	0.9	-
職業	小児科医師	233	65.2	45.1	49.8	15.9	23.2	0.9	0.4
	産婦人科医	164	68.9	48.2	36.6	18.3	12.2	-	0.6
	その他の医師	3	100.0	66.7	33.3	33.3	33.3	-	-
	助産師	81	74.1	65.4	48.1	46.9	32.1	1.2	-
	看護師	58	72.4	63.8	48.3	43.1	31.0	-	-
	その他	4	50.0	75.0	50.0	25.0	-	-	-

# インストラクター：学んでいきたい事柄＜自由回答＞

インストラクター：あなたは、インストラクターとしてどのような事を学んでいきたいと思っていますか？（自由回答）

Aコース修了者へのスキルアップのためのインストラクションについて	小児科医師
人に教える技術(人に話をする技術・言葉づかい選び方・即戦力になるような教え方・学習意欲が上がる教え方)など	小児科医師
新しい知見・受講者から寄せられたちょっとした疑問で答えのはっきりしないものに対する考え方、回答	小児科医師
新しい知識・理解しやすい指導方法・受講者のモチベーションをどうすれば高められるか	小児科医師
アップデートされた内容・他のインストラクターの教え方	小児科医師
医学的な内容のポイントを握り下げてファシリテーションの具体事例	小児科医師
いかに受講者の方々が満足できるか、そして今後広めていけるか	小児科医師
インストラクションの基礎。押し方のノウハウを系統だてて勉強したい(色々なことに通じると思うため)	小児科医師
インストラクターとしての振り返りを定期的に行いたい	小児科医師
インストラクターに向いているかどうかはファシリテーション能力やプレゼンテーション能力を延ばせるかどうかだと思う	小児科医師
上手くできない人に対する助言や指導方法	小児科医師
教えるということ・各施設の現状に沿った蘇生・新しい知見	小児科医師
海外でのNCPRがどのようになっているのか	小児科医師
学習効果を持続させるための方法について	小児科医師
形や数字ではなく本当に新生児の蘇生をできるプロバイダーになってもらえるように、それを教えるプロセスを学びたい	小児科医師
気づきを促す説明	小児科医師
継続して開催していること、受講者のレベル把握	小児科医師
講習会の雰囲気づくり	小児科医師
講習会を開催しそれが現場でどのように活用されるかを把握しながら行っていきたい	小児科医師
講習内容についての復習、新たな知見や変更点の学習、「学習すること」「指導すること」そのものについて	小児科医師
コーチング・リーダーシップと蘇生後のケアについて	小児科医師
この事業の効果について	小児科医師
最新の医学的根拠・最新の機材の使い方	小児科医師
実際に実技のインストラクターをしている場面のDVDなど映像を見て参考にしたい	小児科医師
指導法(言葉づかい、モチベーションを上げるための方法など)	小児科医師
シナリオ実習の進め方。時間が気になって結論を急いでしまいがちになる。受講者の気づきを促しながら進める方法を学びたいと思います。	小児科医師
自分で気づく、学ぶを促す方法	小児科医師
集団としてのスキル向上を可能と出来る指導法	小児科医師
重要度、職種における必要度に応じたバランスの良い指導	小児科医師
受講者が学びにくい点がどこにあるのか等弱点の補正	小児科医師
シュミレーション基盤型教育の有効な進め方	小児科医師
新生児を究明することが現在日本に必要であることを受講者に納得していただく術	小児科医師
成人教育論に基づいたインストラクション	小児科医師
全国で標準化した指導方法を学んでいきたいと思えます	小児科医師
地域で安全なお産ができるような環境作りに役立つスキル	小児科医師
地域の周産期の蘇生率などを知りながら、弱い施設には積極的に介入ができるようなこと	小児科医師
テキスト(インストラクター用)に頼らずにすむディテールの習得	小児科医師
脳低温まで含めてやりたい	小児科医師
場をなごませる方法、質問しやすい雰囲気作り	小児科医師
新しい知識・講習会開催のノウハウ	産科医師
アップデートなNCPRの情報・NCPRの教育スキル	産科医師
新たな知識の習得と適切な教え方	産科医師
いかに分かりやすく教え、技術を習得してもらえるのか	産科医師
一定の頻度の勉強会に参加してインストラクター経験を積みたい	産科医師
インストラクターが講習会を効果的に実施できるように、地域において行政と取り組む方を学んでいきたい	産科医師

エビデンスに基づく理論と可能なら専門病院での実習	産科医師
改正されるたびに地域に正確に伝えられるようにしたい	産科医師
技術的なことに加えてNCPR普及による日本の周産期医療の変化を知りたい(重症仮死やCP頻度が変化するかどうか)	産科医師
講習会でいかに多くのことを確実に伝えられるか。インストラクトスキルを向上させたい。	産科医師
講習会での教え方、低体温法など新しい技術をより詳しく知りたい	産科医師
コメディカルの指導の仕方、臨場感のある研修の仕方	産科医師
自信を持ってインストラクションできるよう実技をしっかりと学びたい(産婦人科医であり日頃常に実行しているわけではないので)	産科医師
指導法の工夫・最新のエビデンス・場合によっては新生児専門医の意見経験工夫	産科医師
受講者が積極的にになれる教え方・指導方法	産科医師
受講者に理解しやすい手順、どこに重点をおいて指導すると良いか、症例の進め方のコツなど	産科医師
職種別の達成目標を明確につかみたい	産科医師
新生児蘇生法そのものの技量の維持のみならず、他人を指導するという点についてのスキルを向上させたい	産科医師
全国で実施している講習会の有意性・さらにインストラクターの意識の向上をはかるため	産科医師
当院には産婦人科はあるが新生児科はないため、もLNCPが必要になったときにベビーを搬送するまでの間、実際にどう手順をふめばスムーズに搬送できるかなど、病院それぞれの状況に応じたコミュニケーションが必要だし、それを学び伝えていけたらと思います	産科医師
ファシリテーションスキルやグループコーチングメソッド	産科医師
よりよい成人教育の在り方	産科医師
臨床に合った指導法	産科医師
受講生の自発性を促す良い方法があれば知りたいですが、これまで指導法講習会などに出かけても、あまり効果的な方法が学べず難しいと思います	その他医師
麻酔科医として参加しており、勤務先に大きく左右されますので自身のスキルアップが大切	その他医師
インストラクター指導技術の習得	助産師
コミュニケーションスキル・バグマスクなど実技的なことの復習	助産師
自分が未熟なのに人に教えるのは難しい。まず自分で自信をもってできるようになりたい。	助産師
受講者に手ごたえ、自信を与えることができるようなスキル	助産師
少しずつ医学の考え方が変わっていくので、そのような部分をふまえた蘇生術の変化を学びたいし、それを皆に伝えていきたい	助産師
他者の気づきにきちんと応えていける技術	助産師
チーム医療・他病院との連携	助産師
ファシリテート能力	助産師
インストラクション技術・一方的な指導ではなく、一人一人が気づきをもって発言できるようにするにはどうすればよいかを実施しながら導き出す方法	看護師
講義のプレゼンテーション能力	看護師
講習会での学びを現場で活かせるトレーニングの方法	看護師
自信がない人に自信を持って蘇生できる手技、知識を習得してもらえるように、自分自身、言葉使い・言葉かけ・雰囲気作り・手技等を学んでいきたい	看護師
受講者に現場で活かせる自信を与えることができるような指導方法	看護師
すぐに実践へとつなげられるよう定期的にシュミレーションしたいと思えます。また他施設のインストラクターの実践を見学し学びたい。	看護師
まだ自身の学習やインストラクターとしての経験を重ねることが不足しているので、チャンスをつかんで慣れたい。そして意欲的に学べるようサポートできる知識も学びたい。	看護師
レクチャーの仕方(相手にどのように気付きを与えるか?)等、職種や理解度の違いによる個別指導のコツ	看護師
分かりやすさ、上手な説明方法をもっと高めていきたいと思えます。また、日ごろから施設内でA・J認定者同士で練習を積むことと思っています。	看護師

※これは自由回答の抜粋です。